

# 平成19年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

## 講演会

### — 開催挨拶 —



新潟市長 篠田 昭

皆さんこんにちは。今日は日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会というかたい名前が付いておりますが、講演会とパネルディスカッションということでございます。大勢の方からご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

このネットワークは日本海側の港湾を使って生きていこうという都市が集まりまして、いろいろな情報交換を平成7年、12年前から始めさせて頂きまして、北は北海道、そして南は九州まで、さまざまな日本海側の港湾が集まっているネットワークでございます。

今日本海側、非常に物流が好調でございまして、例えば1995年からこの2005年まで、日本全国の港ではコンテナ取扱量が4.6%ぐらいしか伸びていないわけですが、日本海側の港、11の港、これで計算いたしますと、13%から14%伸びているということで、今日本海物流が非常に注目をされてきているというふうに思っております。これは中国の沿海部、例えば上海とか天津などの大きな港、そして韓国の釜山、それと日本列島を通してアメリカの西海岸までに世界の最大の物流ルートが走っているわけですが、その物流ルートが今までは太平洋側を走っていたものが、年々日本海側にシフトしてきています。アメリカの西海岸とそして釜山を結ぶにはこちらのほうが早いわけです。それだけ距離が短いということでございまして、今物流面ではもう日本海時代が始まっているというふうに我々は考えておりますが、ただ残念ながらまだ日本海側の港の力がちょっと弱いために、環日本海時代にはなっていないというような状況かなと思っております。

これから日本海側の港の整備を更に進めて頂ければ必ず我々は数字を出せるという、そういう今状況

にありますので、自信を持って我々日本海側の港湾、この整備を国などにお願いをしていきたいと。そしてまた経済界にもそういう状況を知ってもらって、これから東アジアの時代に日本が元気よく生きていくためには、本州の日本海側の港、そして北海道、九州の日本海側の港、ここをもっと整備することが必要だということを、国民的世論を盛り上げていきたいというふうに思っております。

今日はそういう大きな流れの中で、新潟でネットワークの総会が開かれるということでございまして、皆様方にもそのあたりを頭の片隅において頂いて、あとはこれから柳原良平先生が、「アンクル船長、海・船・港を語る」ということで、恐らくさまざまなおもしろいお話が柳原先生から紹介されると思います。皆さんから港、海、そして船に更に親しんで頂こうということでございまして、その後は港湾都市の市長らが集まってパネルディスカッションでこれからのこと、あるいは今の課題について語らせて頂きます。

どうか今日の集まりを通して、これから日本海側が更に本当のにぎわい交流海道になるように、我々もがんばりますし、皆様からご支援を賜りたいと思います。本日は最後までご熱心なご参加をお願い申し上げます。大変ありがとうございました。